



- 巻頭言—— 医歯薬総合研究所長就任挨拶
図書館長就任挨拶
- 特集—— 「異分野融合による脳と心の健康のための
介入的ニューロイメージング研究拠点」プロジェクト
- トピックス—— 平成31年度入学式が行われました
- 表紙写真：「医×歯×薬」3学部合同学生セミナー（関連記事p.9）

医歯薬総合研究所長就任挨拶

医歯薬総合研究所長

平 英一

(薬理学講座情報伝達医学分野 教授)



この度、平成 31 年 4 月より医歯薬総合研究所の所長を務めさせていただくことになりました、生命科学技術支援センターの平英一でございます。私は統合基礎講座薬理学情報伝達医学分野も担当しておりますが、さらに全学的な研究組織において皆様の研究のお手伝い、そして分野横断的な先端研究の推進に、微力ながら力を尽くしていきたいと思っております。

医歯薬総合研究所は、平成 23 年に初代祖父江憲治所長（現学長）のリーダーシップの下で、医学部・歯学部基礎講座、超高磁場先端 MRI 研究センター、動物研究センターの矢巾地区へ移転の契機に、それまで医学部にあった研究支援機関である医用画像情報センター、アイソトープ研究室、バイオイメージングセンター、組替え DNA 実験室などを統合し、さらに分野横断的な最先端の研究を行うために新たに神経科学、腫瘍生物学等の部門を設置した学部横断的研究組織として開設され、多くの研究成果と共同研究の推進の成果を挙げてきました。さらに平成 28 年度からは、先代の佐々木真理所長（現医学部長）の指導の下、引き続き多くの研究成果を積み上げてきております。現在までに、11 研究部門と研究支援のための 6 センターが精力的に活動してきており、令和元年度からは超高磁場 MRI 診断・病態研究部門、医療開発研究部門、臨床研究・疫学研究部門、

腫瘍生物学研究部門、神経科学研究部門、生体情報解析部門、血管生物学研究部門、細胞生物学（再生医学）研究部門、高エネルギー医学研究部門、実験動物医学研究部門、看護・政策研究部門の各 11 研究部門と、生命科学技術支援センター、医用画像情報センター、動物研究センター、超高磁場先端 MRI 研究センター、アイソトープ研究室の 5 研究支援部門が引き続き活動に邁進していく予定です。

本研究所は、総合医科大学として医学部、歯学部、薬学部、看護学部を擁する岩手医科大学の研究面において、学部や分野を横断した先端的活動を行い、また全学的な共同研究、研究プロジェクトを企画、支援していく事を目的としております。令和元年度には、臨床・病院部門も矢巾地区に移転し、大学活動が矢巾地区において本格的に一体となり動き出します。医歯薬総合研究所は、この移転に合わせ今後ますます全学的な研究の推進に向けて充実化を図っていききたいと思います。今後も、皆様方の益々のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

図書館長就任挨拶

図書館長

石崎 明

(生化学講座細胞情報科学分野 教授)



この度私は、平成31年4月1日付で岩手医科大学図書館長を拝命致しました。矢巾キャンパスに隣接して新附属病院が完成する記念すべき令和元年度に本要職に任命されますことは、私にとりまして誠に光栄でございます。また、この附属病院移転後には矢巾キャンパス図書館の利用がますます活発になることと思ひ、たいへん楽しみにしているところでございます。

医療系大学における図書館の基本的な役割は、学生や教員の学習の場であることに加え、教育・研究・臨床という三本柱を支える学術情報基盤としての機能が挙げられます。しかし現在、我々に必要と思われる学術情報の多くはインターネット検索で自由に閲覧できるようになり、必ずしも図書館に行かなければ十分な勉強ができないという訳ではありません。このような状況のもと、我々は医療系大学における図書館の存在意義を常に考えつつ、「機能的な図書館であり続ける工夫」をしていくことが重要であると考えられます。

医療系大学での多職種連携教育 Interprofessional Education (IPE) は、現代あるいは将来社会での医療の質を高めるためには欠くべからざるものと理解されております。矢巾キャンパスでは、歴代の図書館長をはじめとした多くの方々のご努力により、食堂棟1階やモール棟1階などのスペースに

医・歯・薬・看の4学部の垣根を超えたディスカッションやグループワークなどのアクティブラーニングを可能とするラーニングコモンズとしてのエリアが複数設置されています。このような現代医療教育のニーズに合わせた図書館の在り方ということについては、今後も理想を追求し続ける必要があるものと考えております。

また、電子ジャーナルの整備あるいは充実化ということも大きな課題の一つであると考えております。本学の全ての学部の学生、大学院生ならびに教員の学術情報基盤を担保しうる電子ジャーナルの選定について、現場のニーズに沿った方向性を打ち出せるように工夫したいと考えております。

昔のこととなりますが、私が学生だった頃は図書館に対して「静かだけれどもどこか雰囲気の良い場所」というイメージしか湧かなかったものですが、矢巾キャンパス図書館は大きな窓から日光が燦々と入り込み、また椅子やテーブルなどはとてもカラフルです。必ずや学生ならびに教員の知的な好奇心を高めてくれる場所と確信しておりますので、皆様方におかれましては是非とも本学図書館に足をお運び頂けますよう、お願い申し上げます。お願い申し上げます。

文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「異分野融合による脳と心の健康のための
介入的ニューロイメージング研究拠点」プロジェクト

私立大学戦略的研究基盤形成支援事業とは、私立大学が各大学の経営戦略に基づき研究基盤形成を目指す研究プロジェクトに対して、文部科学省が重点的かつ総合的に補助を行う事業であり、この事業を通してわが国の科学技術の進展に寄与するものです。本学では平成26年にこの事業に採択され、5年間にわたり「異分野融合による脳と心の健康のための介入的ニューロイメージング研究拠点」プロジェクトを実施しました。本稿では本プロジェクトの概要、研究体制、成果を中心にご紹介します。

■ 研究概要

本学では文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の助成を受け、平成26～30年度の5年間、「異分野融合による脳と心の健康のための介入的ニューロイメージング研究拠点」プロジェクト（cMRI2, Core of Multidisciplinary Research for Medical Imaging 2）を実施しました。

本プロジェクトは、前身となる同支援事業「超高磁場7テスラMRIを機軸とした生体機能・動態イメージングの学際的研究拠点」プロジェクト（cMRI, 平成21～25年度）にて導入した最新鋭の超高磁場7テスラMRI装置（右写真）による先進的な脳イメージング研究を主軸に、異なる研究分野の専門知識やノウハウを相互共有することで、単独研究では困難であった種々の脳・精神疾患の超早期診断法や介入法の確立を目指し、脳と心の健康維持・増進に寄与することを目的に発足しました。



超高磁場7テスラMRI装置

■ 研究体制

本プロジェクトでは、研究代表者（超高磁場MRI診断・病態研究部門 佐々木真理教授）の研究統括の下、医学部・歯学部・薬学部・医歯薬総合研究所・教養教育センターに所属する21講座・分野の学内研究者を中心に、国内外の学外研究者を加えた学部横断的な研究グループを組織して、以下の4テーマごとに学際的研究チームを編成して共同研究を推進しました。

- (1) 微細脳血管・血管壁病変への多角的画像アプローチによる認知・精神機能障害の機構解明と予防への展開（リーダー：解剖学講座人体発生学分野 人見 次郎 教授）
- (2) 無侵襲脳循環代謝計測の高精度化による脳・心・血管疾患治療における高次脳機能の回復と温存法の確立（リーダー：脳神経外科学講座 小笠原 邦昭 教授）
- (3) 複合的先進機能イメージングによる脳・精神疾患の包括的超早期診断法の確立と早期治療介入への活用（リーダー：内科学講座神経内科・老年科分野 寺山 靖夫 前教授）
- (4) 超高磁場機能的MRIによる網羅的全脳解析を用いた高次脳機能・精神機能の解明と臨床ツールへの発展（リーダー：超高磁場MRI診断・病態研究部門 佐々木 真理 教授）

研究実施体制としては、プロジェクト推進委員会を組織し、定例会議を毎月開催しました。各自の研究計画や研究進捗状況について毎回報告し、チーム間・テーマ間・研究者間で積極的に意見を交わすことで、共同研究の質向上と加速を図りました。また、インセンティブを高めるため、研究業績に応じて研究費の傾斜配分を実施しました。

■ 研究成果

本プロジェクトには、延べ80名以上の臨床系・基礎系研究者が参加し、約200編の英文論文を発表することができました。また、知的財産・産学連携についても、特許出願5件、技術移転2件を含む多くの成果をあげることができました。中でも、高精細MRA撮像法¹⁾、3次元プラークイメージング法²⁾、血管壁ずり応力評価法(図1)、無侵襲脳酸素代謝測定法(図2)、拡散尖度解析法³⁾などの先端MRI技術を独自に開発し、脳血管障害、脳腫瘍、認知症、精神疾患、他臓器疾患などの臨床研究に広く応用することで、MRIによる超早期診断法やリスク予測法などの新たな可能性を世界に向けて発信することができました。その他、血管発生や脳機能の解析、エネルギー弁別CT、7テスラMRI画質向上法など、未来に繋がる様々な基礎研究や要素技術開発も行いました。

- 1) MRAはX線や造影剤を用いずに血管を無侵襲に描出する手法だが、7テスラによる0.2mm超高分解像度撮像では穿通動脈などの脳微細動脈の描出が可能となった。
- 2) プラークイメージングは動脈硬化による粥腫の性状を識別する手法だが、3次元化により画質やコントラストが向上し、頭蓋内動脈の微細プラークの評価も可能となった。
- 3) 拡散尖度画像は水分子の拡散が正規分布から逸脱する度合いを定量評価する手法だが、独自の高精度解析ソフトウェアを企業と共同開発することで、いち早く臨床応用が可能となった。

本プロジェクトでは若手研究者養成にも積極的に取り組み、ポスト・ドクター2名を採用してオン・ザ・ジョブ・トレーニングを行い、高度な解析技術の習得と共同研究への参画を図りました。また、大学院生への積極的な研究指導を行い、多くの学位論文を一流国際雑誌に発表することができました。さらに、若手研究者対象のセミナーや講演会を20回以上実施するとともに、学内外の研究者や一般市民を対象とした公開シンポジウムを毎年開催して最新の研究成果の報告を行いました。詳しい研究概要や成果などの情報は、医歯薬総合研究所のホームページ(<https://amrc.iwate-med.ac.jp>)に掲載しています。また、この大学報が皆様のお手元に届く前後には、研究成果の最終報告書が一般公開される予定です。

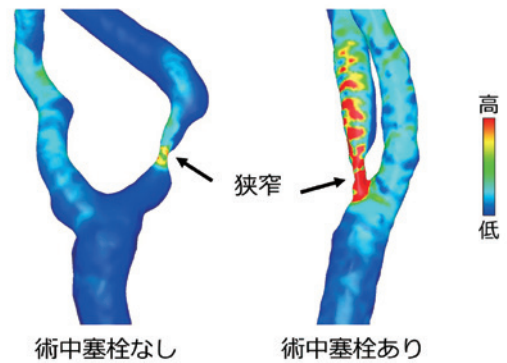


図1 頸動脈壁ずり応力の可視化

頸部頸動脈の狭窄部における壁ずり応力が高い場合(右)、術中に微小塞栓が発生しやすい。

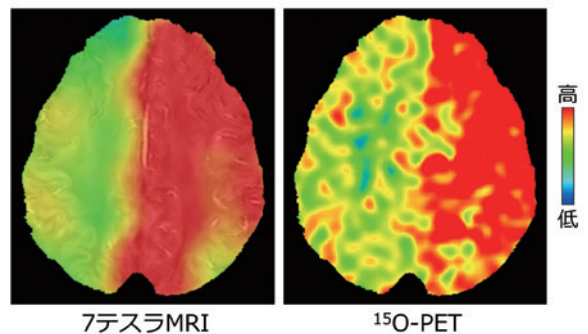


図2 MRIによる脳酸素摂取率の測定

慢性脳虚血による左大脳半球の脳酸素摂取率の上昇が、PETと同等の精度で画像化できている。

第5回 cMRI2 公開シンポジウムの様子 (平成31年3月18日開催)



祖父江学長あいさつ



佐々木研究代表あいさつ



演題発表



質疑応答

■ おわりに

本プロジェクトを通し、本学がかねてより推進してきた学部・講座・職種の壁を越えた学際的研究体制をさらに強固なものにすることができました。これは次世代へ繋ぐ本学の財産の一つであり、今後の大型プロジェクトのみならず、日々の研究活動へも継承されていくことを期待しています。

最後になりますが、本プロジェクトをご支援頂きました学内外の多くの皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。(文責：超高磁場MRI診断・病態研究部門 助教 上野 育子)

学校法人岩手医科大学

令和元(2019)年度 事業計画

1. 背景と方針

全国の大学の約8割を占める私立大学は、わが国の高等教育における基盤形成の大きな一翼を担っている。近年、大学の増加や少子化の影響により、その約4割が定員を充足できず、経営難に陥る等、大学淘汰の時代が到来している。

一方、わが国の経済情勢もアベノミクスの効果は限定的で、全体としては依然として厳しい状況にある。これに拍車をかけるように本年10月からは、消費税が8%から10%に引き上げられる見込みであり、私立大学には大きな負担となることが必至の状況である。

しかしながら、この様な環境下にあっても、開設から120余年の歴史と伝統を誇る本学は、建学の精神に基づき、有為な人材を育成し、地域医療の安定を図り、社会に貢献する使命を永続的に果たしていかなければならない。そのためには、倫理観を重視しつつ、既成概念にとらわれることなく次代を見据え、変革を重ねていく必要がある。

その一環として、最新の生命科学に対応した教育・研究・医療を実践していくため、総合移転整備計画を策定し、明治30年の本学開設以来、拠点としていた内丸キャンパスから矢巾キャンパスへの大学施設の段階的整備を進めてきたところであり、令和元(2019)年度は、当該整備計画の集大成ともいえる矢巾新附属病院が竣工し、開院を迎えることになる。この新病院の運営を速やかに軌道に乗せ、次世代に継承していくことが、現教職員に課せられた使命である。よって、今年度は、附属病院の矢巾移転及び内丸メディカルセンターの開業を最優先事業と位置づけ、各事業を展開するものとする。

今年度上半期は、9月の開院に向け、機器の搬入や患者搬送のシミュレーションを行い、患者の安全を最優先とした万全の体制で引越しを完遂させること、開院後の下半期は、可及的速やかに新病院の運営を軌道に乗せる

ため、高規格の外来診療を担う内丸メディカルセンターとの機能分担の下、両病院を一体的、有機的に運用させるとともに、各医師会、関連病院、開業医との緊密な連携を推進し、患者の安定的確保を図ることとする。

なお、移転に係る事業費は、震災復興事業や東京オリンピック関連事業に伴う資材や人件費の高騰等により、計画当初の想定を大幅に上回ったことから、これまでも事業費の圧縮や医療収支の改善に向け、大学を挙げて対策を講じてきたところであるが、今後控える内丸メディカルセンター新棟建設資金確保のため、患者紹介率や病床稼働率の向上、後発医薬品への切替え、SPD(院内物流管理システム)による医療材料の適正管理等を継続し、医療収入の増加と医療経費の削減を図るとともに、近年、入学生定員の充足に至っていない歯学部、薬学部の入学生の獲得に向けて、抜本的な改革に取り組み、学納金収入の安定化に努めることとする。

そして、社会情勢を慎重に見極めながら、各種補助金等の獲得や金融機関等からの資金調達も含めた中長期的な資金計画に基づき、経営基盤の強化を図っていく。

その上で教育、研究については、国家試験合格率の向上、学生定員の確保、大学ブランド力の強化、競争的外部資金の獲得等が、大学の存亡に関わる極めて重要且つ喫緊の課題であることから、内部質保証システムを構築の上、PDCAサイクルを機能させながら、医学部、歯学部、薬学部、看護学部の連携教育・研究を特色とした医療系総合大学としての付加価値を高め、戦略的な取り組みを実践するとともに、法令遵守の下で将来的な視点に立ち、矢巾キャンパスの更なる教育研究環境の充実に向け、検討を進めることとする。

以上の方針に基づき、令和元(2019)年度は次の重点事業を実施する。

※掲載内容は、「平成31年度事業計画書」を抜粋したものです。

詳細は「平成31年度事業計画書」及び本学ホームページ「情報公開」をご参照ください。

2. 主要な事業計画

1 創立120周年記念事業関係

- 1 矢巾新附属病院開院及び患者搬送計画の実施
- 2 内丸メディカルセンター開院及び施設改修工事の実施
- 3 矢巾キャンパス改修工事の実施
- 4 内丸地区跡地活用計画の検討推進
- 5 附属病院落成式典

2 教育・研究関係

- ① 医学部教育の質の向上と卒業時の教育成果達成に向けた対応
- ② 歯学部における学生教育の充実と教育力向上対策の実践
- ③ 薬学部における学修能力向上に向けた取り組み
- ④ 看護学部における設置計画の着実な履行と教育研究活動の充実
- ⑤ 「ひらめき☆ときめきサイエンス」による小・中・高校生を対象にした薬学の啓発
- ⑥ マルチメディア教室備付ノートパソコンの計画的更新 (5か年計画、3年目)
- ⑦ 矢巾キャンパス施設の視聴覚機器の計画的更新 (4か年計画、1年目)
- ⑧ 教育改善のための全学的 FD・SD 推進
- ⑨ 教学 IR (Institutional Research) 充実化事業
- ⑩ 学生のキャリアビジョンを上げ、希望する就職を実現するための支援
- ⑪ 「巖手醫學文庫」及び貴重書の整理
- ⑫ 岩手看護短期大学の国家試験合格率の高位維持
- ⑬ 医療専門学校の入学生確保と国家試験合格率の高位維持

3 補助事業及び委託事業関係

- ① 厚生労働行政推進調査事業費補助金による健康安全・危機管理対策総合研究事業 (平成 25 年度～平成 32 年度)
- ② 日本医療研究開発機構委託事業 認知症研究開発事業 (平成 28 年度～平成 32 年度)
- ③ 岩手県委託事業 災害時実践力強化事業
- ④ 岩手県こころのケアセンター事業
- ⑤ いわてこどもケアセンター運営事業
- ⑥ 岩手県ドクターヘリ運航事業
- ⑦ 東北メディカル・メガバンク計画

4 医療関係

- ① 附属病院移転に伴う病院システムの整備
- ② 地域医療機関との連携強化

5 管理運営関係

- ① 附属病院移転に係る資金借入
- ② クラウドサービスを活用した内丸・矢巾間の情報共有基盤の整備
- ③ 勤怠管理システムの導入について

6 施設設備関係

- ① 10 号館低層外来棟外壁修繕
- ② 矢巾キャンパス体育館・食堂棟外壁タイル修繕
- ③ 中病棟 4 号機寝台用エレベーター制御改修工事
- ④ 花巻温泉病院職員宿舍等の解体



ペイシェントセーフティファースト賞の受賞に寄せて

第 5 回日本医療安全学会学術総会において、医療安全推進室・北川寿子看護師長らの「転倒・転落予防に関する入院患者の教育資料の改良～経験を数値化し、よりよい実践を～」がペイシェントセーフティファースト賞を受賞しました。

この研究は「長年の看護師経験から発熱って、転倒転落にとっても関係していると思うんだけど、教育資料には発熱に注意って書いてないのよね」という何気ない北川師長の一言から始まり、インシデントレポート等をデータ化、「発熱」と「転倒・転落」とを量的に証明した上で教育資料の改良に至ったプロセスを集約したものです。まさに、さまざまな研究デザイン・方法論を駆使して、エビデンスのある介入法を日常診療に取り入れるための方法を開発・検証する Dissemination and Implementation Science (D&I) の実践でした。

多忙な日常診療の中から届けられるインシデントレポートはかけがえのないものです。今回、職員の皆様の熱意と北川師長を始めとする推進室スタッフの努力が融合し、このような結果に至ったことを誇らしく思います。今回の受賞を励みとし、より安全な医療の実現に推進室一同協力し活動を継続していきたいと思っております。

(医療安全管理部 部長 肥田 圭介)



正面：北川寿子看護師長
奥左から：肥田圭介部長、菅原敏子主任看護師、秋山直美講師

駐日英国大使館職員へメンタルヘルス・ファーストエイド研修を行いました

平成31年3月14日(木)・15日(金)に、神経精神科学講座の大塚教授は、駐日英国大使館から招聘され、こころの危機への応急対応に関する研修を行いました。英国ではウィリアム王子やメイ首相もメンタルヘルス・ファーストエイド(MHFA)の活動を支援しており、この研修は世界各国で展開されています。

研修当日はMHFAの教育コースに基づき、大使館職員がメンタルヘルスの不調を抱える方への支援法について学ばれました。



高度看護研修センター特定行為教育課程開講式が行われました

4月8日(月)、創立60周年記念館10階会議室において、高度看護研修センター特定行為教育課程の開講式が行われました。

同センターの特定行為教育課程では、平成27年10月より「創傷管理関連コース」が創設され、昨年度からは「呼吸器関連コース」が新たに開設されています。また、共通科目では、e-ラーニングを導入し、働きながら各自のペースで学習できる環境を整備するなど研修内容を一層充実させています。

開講式では、第5期生となる今年度の研修生10名(呼吸器関連：4名、創傷管理関連：6名)を代表し、医療法人友愛会 盛岡友愛病院の野崎愛子さん(写真)が「チーム医療のキーパーソンとして活躍できるよう、研修を通して看護の質の向上を目指します」と決意を述べました。



平成31年度入学式が行われました

4月10日(水)、岩手県民会館大ホールにおいて、岩手医科大学・岩手看護短期大学の合同入学式が行われました。岩手医科大学では、大学院医学研究科博士課程36名・修士課程4名、歯学研究科博士課程15名、薬学研究科博士課程4名、医学部121名・3年次編入7名、歯学部50名・2年次編入学3名、薬学部48名、看護学部は90名の入学生を、岩手看護短期大学では、専攻科地域看護学専攻20名、助産学専攻15名の入学生を迎えました。

また、岩手医科大学医療専門学校の入学式は、4月6日(土)に歯学部4階講堂で行われ、歯科衛生学科34名の入学生を迎えました。

岩手医科大学・岩手看護短期大学 入学式



岩手医科大学医療専門学校 入学式



「医×歯×薬」3学部合同学生セミナーが行われました

4月20日(土)、矢巾キャンパスにおいて、3学部合同学生セミナーが開催されました。第6学年の必修科目となり3回目の開催となるこのセミナーは、医学部・歯学部・薬学部の全学生が共に学ぶ多職種連携教育の集大成として、5学年までに修得した専門知識と経験をもとに、事前に提示された症例を複数の学部の混成チームによりPBL(問題基盤型学習)形式で検討するものです。

当日は、患者さんやご家族への説明を想定し、事前に各学部で検討した内容をもとに他の学部の学生と意見交換を行い、治療方針を共働でまとめました。専門知識を修得した学生が患者さんの立場に立ち、他学部の学生とともに治療方針の検討を行うことで、医療現場における多職種連携の重要性について理解を深めました。

なお、来年度からは看護学部が加わり、4学部合同での実施を予定しています。



中咽頭がんの症例検討グループ



多発性骨髄腫の症例検討グループ



患者さん・ご家族とのインフォームドコンセントを想定した演習

総合安全対策講習会ならびに医療安全表彰・院内感染対策功労部署表彰が開催されました

平成31年度総合安全対策講習会が4月23日(火)から13回(録画映像による開催含む)にわたり、岩手医科大学講堂で行われ、教職員延べ2,325名が参加しました。講習会では、肥田医療安全管理部長、櫻井感染症対策室長、医薬品安全管理責任者である佐藤副薬剤部長、久保田主任臨床工学技士による講演が行われ、院内における総合的な医療安全対策や院内感染対策に関する理解を深めました。



また、平成30年度医療安全表彰部署として4部署、院内感染対策功労部署として3部署に対し、肥田医療安全管理部長から表彰状が授与されました。



〈平成30年度表彰部署〉

写真左から

医療安全表彰部署

- 中3階病棟(代表 鳥居 明美 看護師長)
- 呼吸器外科(代表 重枝 弥 リスクマネージャー)
- リハビリテーション部(代表 佐藤 真一 リスクマネージャー)
- 脳神経外科(代表 久保 慶高 リスクマネージャー(代理: 攝田 典悟 医師))

院内感染対策功労部署

- 西4階病棟(代表 石森 由樹 看護師長(代理: 藤村 紀子 主任看護師))
- 歯科衛生部(代表 高橋 直子 衛生士長)
- 中央材料室(代表 佐藤 剛彦 マネージャー)

新任教授の紹介

平成31年4月1日就任

放射線医学講座

吉岡 邦浩 (よしおかくにひろ)

長野県長野市出身



研究テーマ

・非侵襲的画像診断法、特に循環器領域の画像診断

主な著書論文

- ・アダムキュービッツ動脈の MR 血管造影と CT 血管造影 (Radiographics 2003; 23: 1212-1225.)
- ・第二世代の 320 列 CT を用いた冠動脈のサブトラクション CT 血管造影 (Int J Cardiovasc Imaging 2015; 31; suppl 1: 51-58.)
- ・超高精細 CT を用いたアダムキュービッツ動脈の CT 血管造影 (Neuroradiology 2018; 60: 109-115.)

趣味

鉄道、特に駅

教職員への自己PR

このたび、放射線医学講座の教授を拝命いたしました。放射線医学講座は足澤三之介教授によって昭和12年5月12日に開設されました。私で5代目となります。このような歴史のある教室の舵取りという重責を担うことになり、誠に身の引き締まる思いです。私が考える放射線科の役割は、画像診断やIVRを通して各診療科、ひいては病院全体の質の向上に貢献することと考えています。もとより浅学非才の身ではありますが、皆様のお力をお借りしながら母校である岩手医科大学の発展に少しでも貢献したいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

経歴

昭和60年	岩手医科大学 医学部 卒業
	岩手医科大学 医学部 放射線医学講座 入局
平成2年	岩手医科大学 医学部 放射線医学講座 助手
平成5年	国立循環器病センター放射線診療部
平成6年	岩手医科大学 医学部 放射線医学講座講師
平成9年	同上 (循環器医療センター配置)
平成16年	同上 助教授
平成19年	同上 准教授
平成24年	同上 特任教授
平成31年4月	現職

平成31年4月1日就任

内科学講座神経内科・老年科分野

前田 哲也 (まえだてつや)

昭和42年9月14日生
青森県出身



研究テーマ

・セロトニンニューロンにおけるドパミン産生放出機構とパーキンソン病治療、パーキンソン病のQOL向上、神経変性疾患における酸化ストレス

主な著書論文

- ・国内35施設、1021名のパーキンソン病を対照とした非運動症状の臨床的特徴 (Parkinsonism Relat Disord 2017; 38: 54-60.)
- ・本邦パーキンソン病患者のエゴグラム (Neurol Clin Neurosci 2018; 6: 71-76.)
- ・パーキンソン病モデルラットにおける線条体セロトニンニューロンでのドパミン合成 (Brain Res 2005; 1046: 230-3.)

趣味

旅行

教職員への自己PR

4月1日付けで内科学講座神経内科・老年科分野の教授に就任しました。当学へ赴任し既に3年が経ち、数多くの先生方、スタッフの方々にお世話になっております。改めて感謝を申し上げます。臨床神経学は脳神経系に生じるあらゆる疾患を対象とする学問であり、その病態は極めて多彩で治療可能なものから難病も多いことが特徴です。今後も皆様方のお力も拝借しながら治療、研究に取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い致します。

経歴

平成5年	弘前大学医学部 卒業
	同 第三内科
	同 附属脳神経疾患研究施設臨床神経部門
平成13年	滋賀医科大学解剖学第一講座
平成14年	弘前大学医学部附属病院第三内科 助手
平成15年	秋田県立脳血管研究センター神経内科学研究部
平成26年	同 難治性脳疾患研究部 部長
平成28年	岩手医科大学医学部
	内科学講座神経内科・老年科分野 特任准教授
平成31年4月	現職

平成31年4月1日就任

医学教育学講座医学教育学分野

田島 克巳 (たじま かつみ)

昭和35年1月24日生
愛知県名古屋市出身



研究テーマ

- ・学修成果を反映する評価方法の確立、国際基準に則ったカリキュラム開発、末梢神経の再生と治療

主な著書論文

- ・医行為基準アンケート調査から見た教員の診療参加型臨床実習に対する認識と呈言 (岩手医誌 2017; 69: 109-116.)
- ・肘部管症候群再発例の手術所見からみた初回手術の留意点 (日手会誌 2004; 21: 149-152.)
- ・サルを用いた神経同種移植による末梢神経再生 (J.Bone Joint Surg. 1991; 73-A: 172-185.)

趣味

ドライブ・スポーツ観戦

教職員への自己PR

このたび、医学教育学講座医学教育学分野の教授を拝命いたしました。今、医学教育は国際基準に則った形で行われることが求められています。その一環として、2018年にコンピテンシーを作成しました。今後は、学生がコンピテンシーを修得できることを保証するカリキュラムの導入や評価法を導入する必要があります。医学教育学講座では、収集した最新の情報を本学の教員と共有し、より良いカリキュラムや評価法の導入に向けた案を提示していきたいと考えております。皆様のご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

経歴

昭和59年	岩手医科大学医学部	卒業
平成1年	岩手医科大学医学部大学院	卒業
	岩手県立都南の園	医師
平成2年	岩手県立都南の園	医長
平成3年	岩手医科大学整形外科学講座	助手
平成9年	岩手医科大学整形外科学講座	嘱託講師
平成17年	岩手医科大学整形外科学講座	講師
平成26年	岩手医科大学医学教育学講座	講師
平成27年	岩手医科大学医学教育学講座	准教授
平成29年	岩手医科大学医学教育学講座	特任教授
平成31年4月		現職

理事会報告 (3月定例ー3月25日開催)

- 平成30年度補正予算について
- 附属病院移転に係る資金借入について
- 平成31年度事業計画について
- 平成31年度予算について
- 花巻温泉病院宿舎等の解体について
- 理事の職務担当区分について
- 評議員の選任について
第4号評議員 高橋 真 (新任)
任期 平成31年4月1日から平成33年3月31日
(他の評議員の残任期間)
- 役職者の選任について
全学教育推進機構長 佐藤 洋一 (再任)
医学部副学部長 滝川 康裕 (新任)
医学部副学部長 古山 和道 (新任)
(任期 全学教育推進機構長については、平成31年4月1日から1年間、医学部副学部長については、平成31年4月1日から3年間)
- 教員の人事について
医学部 内科学講座血液腫瘍内科学分野 教授 伊藤 薫樹 (前 臨床腫瘍学講座 教授)
医学部 医療安全学講座 教授 肥田 圭介 (前 同講座 講座内教授)

- | | | |
|----------------------------|-------------------------|--------------------|
| 医学部 | 泌尿器科学講座 | 准教授 |
| 杉村 淳 (前 同講座) | 特任准教授 | |
| 歯学部 | 口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野 | 准教授 |
| 熊谷 美保 (前 同分野) | 特任講師 | |
| 薬学部 | 臨床薬学講座臨床薬学分野 | 准教授 |
| 朝賀 純一 (前 岩手医科大学附属病院 主任薬剤師) | | |
| 医学部 | 外科学講座 | 特任准教授 |
| 岩谷 岳 (前 同講座) | 講師 | |
| | | (発令年月日 平成31年4月1日付) |
| 医学部 | 内科学講座神経内科・老年科分野 | 講座内教授 |
| 板橋 亮 (現 広南病院 副院長) | | |
| | | (発令年月日 割愛の状況による) |
- 学則の一部改正等について
 - 組織規程の一部改正について
 - 職員就業規則及び臨時職員就業規則の一部改正について
 - 教育職員の定員に関する規程の一部改正について
 - 経理規程の一部改正について
 - 内丸メディカルセンターの病院開設許可申請について
 - 内丸メディカルセンター開設に伴う整備工事について
 - 附属病院新築工事に係る追加工事について
 - 矢中新病院に係る新規購入機器の選定について

スポット医学講座

内科学講座消化器内科消化管分野 准教授 中村 昌太郎



ピロリ菌と胃がん

ピロリ菌とは、正式にはヘリコバクター・ピロリ (*Helicobacter pylori*) という細菌で、ヒトの胃の中に生息しています。1983年に、オーストラリアの病理学者ロビン・ウォーレンと当時は研修医であったバリー・マーシャルがピロリ菌の培養に初めて成功しました。その後、世界中で多くの研究が行われ、ピロリ菌が慢性胃炎、胃潰瘍・十二指腸潰瘍、胃がん、胃MALTリンパ腫などの原因であることが明らかになりました。ウォーレンとマーシャルの「ピロリ菌の発見と胃炎、胃・十二指腸潰瘍における役割の解明」という功績に対し、2005年にノーベル賞が授与されました。

ピロリ菌の感染経路は、主として、乳幼児期に唾液を介して口から感染すると考えられています。衛生状態が整備されていない途上国などでは、井戸水からの感染も報告されていますが、衛生環境が整備された現在の日本では、水から感染する可能性はほとんどありません。

日本でピロリ菌に感染している人は、約6000万人といわれており、特に50歳以上の人で感染率が高いとされています。しかし、衛生環境の整備に伴い、ピロリ菌感染者の割合は年々減少していま

す。2013年には、内視鏡検査でピロリ菌感染胃炎と診断された人は、保険診療で除菌治療を受けることが可能となりました。今年年間約150万人が除菌されており、ピロリ菌感染者はさらに減少すると予想されています。今後は、胃がん患者および胃がん死亡者数の減少が期待されています。

最近では、人間ドックなどでピロリ菌の検査を受ける機会も増えているようですが、まだ検査されていない方は、一度専門の医療機関で相談してみてください。



ピロリ菌診療ガイドライン

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤真結美
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	熊谷 佑子
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木 忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田由希子	藤村 尚子
佐藤 仁	武藤千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

日中は汗ばむほどの陽気となり、夏が近いことを実感する季節になりました。

今回、ペイシエントセーフティーファースト賞を受賞した医療安全推進室では、現場で発生した約3年間のインシデント・アクシデント12,514事例をデータ化したと聞きました。まさに現場での情報を活かしており、日頃の苦勞が報われたおもいでした。今後とも職種を超えて安全な医療の実現に向けて努めていきたいと思ひます。

(編集委員 佐藤 真結美)

岩手医科大学報 第512号

発行年月日 令和元年5月31日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 法人事務部 総務課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111 (内線4220)

FAX. 019-654-7563

E-mail: kouhou@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp